



壬生町政だより

住民登録人口

昭和42年12月1日現在	対前月比
総人口 24,725人	25人増
男 12,205人	15人増
女 12,520人	10人増
世帯数 5,253世帯	3世帯増

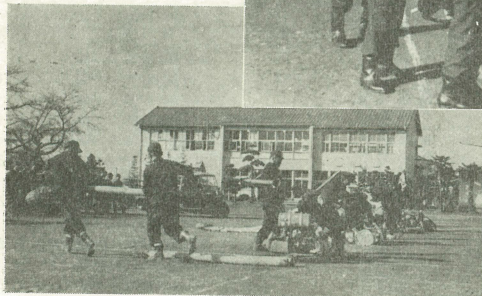
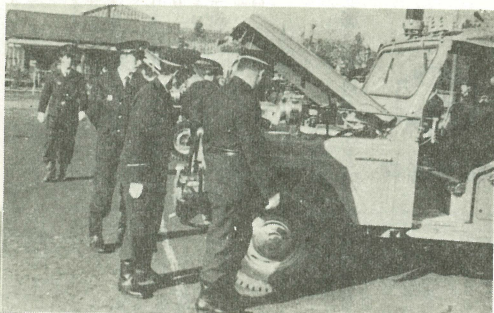
発行所 栃木県壬生町役場

(毎月21日発行)

昭和42年9月30日第三種郵便物認可

一部4.7円

上＝機械点検をする佐藤消防長と団長



下＝消防団の操法点検

鈴木正明氏ほか100余名を表彰

火災のシーズンに備えて消防点検

壬生町消防団の通常点検は、十二月一日午前八時三十分から、壬生小学校々庭で行なわれました。この日、名譽ある表彰を受けた方々は次のとおりです。

◆栃木県消防協会長賞

十九年永年勤続賞 鈴木正明
(第二分団)

六十八年無火災賞 山崎豊吉
(自治会長)

◆栃木県消防協会下都賀支部長賞

功績者 鈴木正明ほか一名
五カ年永年勤続者 筒森善作ほか十三名

◆壬生町長賞

功績者 余川定雄(第三分団長)ほか十一名

◆退団者壬生町長感謝状

元消防団長 白井 武
同副団長 石川昭三
同第一分団長 吉田上勝ほか五十一名

◆壬生町長賞

・ 早期発見 高山左京(町生田)ほか一名
・ 消防団に協力 坂田佐一郎(上稲葉)ほか八名
・ その他 後藤勇市(七ツ石)ほか六名

知事賞に大垣さん

年毎に向上する産業祭



若手牛の審査風景

第二回壬生町産業祭は、十一月二十八・二十九日の二日間にあつて、壬生小学校の校庭と中央公民館において行なわれました。この産業祭は、従来の農業祭や畜産共済会をまとめて名をかえて昨年から始めたものです。年毎に出品数も増加しており、産業の発展をみちびき、今後の向上が約束されています。この日の出品展示は、農業の部分では、穀類三三七点、ホ素一八七点、その他六六、若令肥青牛三十七頭、農業製品二点。商工の部分では、おもちゃ、かん

工業統計調査にご協力を

昭和四十二年の工業統計調査が十月三十日現在で全国一斉に行なわれます。この調査の結果はわが国における工業の実態を明らかにして行政や経済政策の基礎となることとは勿論、県や市町村においても、地域経済の開発、特に工業の振興開発のための資料として大きな役割をもつて、重要な調査の実態にあつては知事

老人クラブが北小へ寄付

中東老人クラブ（代表 笠川吉治）の基金へ寄付されました。十一月十一日クラブ員が集まり社会に役立つようにと、それぞれおごしとした。竹ボキキ四十六本と雑巾一七枚は壬生町立北小学校へ寄附されました。

稲葉小の建設は六〇%完成

壬生町立稲葉小の校舎新築は、九月七日から始めており、来年三月の完成をめざして、着々と進められています。工事も約六〇%ができてあり、十二月十四日には、町長はじめ関係者約九十名が集まり、上屋式が行なわれました。この工事については、壬生町はじめの鉄筋コンクリート造りの着々と進む稲葉小学校々々

教育委員長に毛塚氏

十一月の定例教育委員会は、十一月十日午前十一時役場会議室に招集されました。その席上で、山田郁二氏の教育委員長の任期が満了となり、その後任者について選出が行なわれました。その結果、教育委員長に毛塚茂樹氏が選ばれ、また、委員長職務代理者の中里徳雄氏が選任されました。なお、任期は、昭和四十三年十二月十五日とされています。



消防自動車を購入

これから冬を迎えて火災のシーズンに備えて、さる十一月二十四日に消防自動車三台を購入し、その入魂式が行なわれました。この車は、トヨタマークIII号の二トン車を改造した塔載車（可搬式小型動力ポンプ）です。なお、これらの車を、第一分団第一課（星の宮町）、第二分団第五課（下稲葉）、第三分団第三課（中東）それぞれ、佐藤消防長から配属されました。これにより、十六台のうち十三台が消防自動車となり、火災から財産を守るための消防力はなお一層充実したわけですが、写真は、購入した消防自動車の入魂式

家庭メモ. (六)雪が過ぎるころ冬らしい寒さがやってくるものとす。障子の張り替え、早目早日のつくく、畳替えなど、早目早日のつくく、畳替えなど、早目早日のつくく... (七)冬物は衣類はもうすっかり整理してありますが、お正月用の晴れ着もあまた集って、お正月の準備もそろそろ始まっています。お正月の準備もそろそろ始まっています... (八)お正月の準備もそろそろ始まっています...

さあねようアツ! そのまえに火の点けん. これからだんだん寒くなり、空気も乾燥して火災のおきやすい季節となりました。火の元には充分気をつけてまいり。壬生町で今年1年間、すでに9件の火災を起しています。火災というものは、家ごと灰になってしまいます。火を出してからでは、もうおそすぎる

昭和42年度の地方債現在高

- 68,946,939円 (一般会計)
- 39,000,000円 (上水道特別会計)
- 55,300,000円 (公共下水道事業特別会計)

壬生町の

昭和42年

最小の経費で最大の効果

昭和四十二年壬生町一般会計歳入歳出の予算に対する執行状況を表わした表です。

まず、歳入についてみますと収入済額は二億二千二百四拾四万二千円で予算に対する収入割合は七一・一％となります。

その主たる収入は、国から交付される地方交付税の一億四百二十拾七万五千円と町税の六千八百八拾万六千円です。

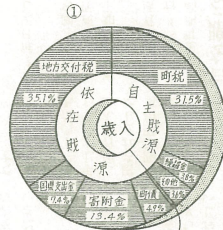
また、歳出についてみますと支出済額は一億四千五百拾四万九千円であり、その執行状況は予算に比し四六・二％であります。

ここでわかりますことは、壬生町がいかに健全財政を保っているかということです。

それは収入済額七一・一％に対し支出済額は四六・二％であることと云う事です。つまり確実な収入の見通しを立て、支出の執行をしているという事であり、常に町の執行部におきましては議会で議決した予算の目的に従って、事務的な事業なりの緊急性、行政事務の効果的な執行の方法等、資金計画を考慮して、年間計画を立て、最小の経費で最大の効果を挙げるよう努力しています。

財政事情

4月～11月



昭和四十三年度壬生町の予算総額で四千拾八万五千円、壬生町公額(十月三十日現在)は、一般 共下 水道事業特別会計予算で一億一千万円、壬生町国民健康保険特別会計予算で三億一千四百八拾六万六千円、これを合算すると実に六億七千四百四拾四万八千七百八拾六円となり、すべし予算は、住民の代表者すなわち町議会の議決により成立し、これら最小の経費で最大の効果を挙げるべく執行しております。

健全財政を堅持

明るく、住みよい、そして豊かな町造りのため、町の行政は日夜すすめられております。重点施策として常に町民福祉の増進を図ることは勿論のこと教育の振興、及び土木行政の充実に努力しております。

しかしながら、日常生活に直接つながる町政がより充実したものとするためには町民のみならず、ご意見、ご協力が必ず必要であります。

このため、まず町の財政の動きについて、町民のみなさんに広く知っていただくこととするのが財政状況公表の目的であります。

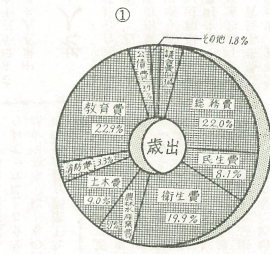
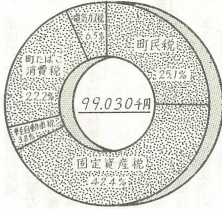
今回は主として昭和四十二年四月一日から昭和四十二年十月三十日までの町財政のあらましについて公表することにしました。

なお、町財政について、町民のみなさんの深い理解と積極的な協力をお願いします。

町税に対する
1人当り負担額
4,009円



1世帯当りの負担額
18,863円



三億一千四十二万円の
現計予算で

昭和四十三年度壬生町一般会計予算歳入・歳出の主な形について、予算の占めの割合を表わした円グラフです。

これを見てわかりますように収入におきましては、地方交付税・国庫支出金等、国庫から受ける依存財源が総収入の約六一・一％を占め町税等の自主財源は三八・九％であります。また歳出では、教育、衛生民生、土木費が総予算の五九・九％を占めております。

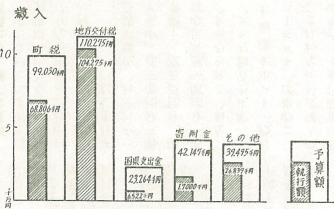
住民の方からいただく町税の税目別内訳です。

これを人口一人当りにしますと四千九円また一世帯当りにしますと一万八千八百六十三円となります。この中で住民の方は、たばこ消費費です。実に総収入の二・二％を占めております。

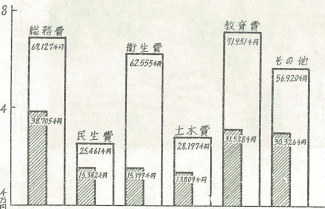
これは町内のたばこ屋さんと買われたたばこの売上によって八・一％が町の町税として収入されます。

ですからたばこを買う場合は必ず町で買うようにしていただければそれだけ多くの収入があるわけです。

③一般会計予算執行状況



歳出



昭和41年度は 一般会計 特別会計 5億5千989万3千円で決算(見込)

会計名	予算額	収入済額	支出済額
	千円	千円	千円
一般会計	293,260	299,857	285,312
国民健康保険	95,989	95,196	93,452
公共下水道事業	156,955	156,955	156,522
上水道事業	24,744	24,828	24,604
合計	570,948	576,837	559,898

本年の事業は

一般会計予算に占める本年の道路改修工事六百二十拾九万八千九百九十四円あります。主な事業は福葉小学校建設事業に消費的経費の削減に努める投資停車場線舗装工事、外六路線の経費重点策をとっています。



医師の休診日

壬生町管内の病院、医師、歯科医師の休診日は次のとおりです。ご利用下さい。

病院名	休診日	電話
市川医院	毎週 日曜日	壬 148
小倉医院	毎週 日曜日・祭日	壬 57
木村医院	第2・4日曜日	壬 56
陣内医院	第2・4日曜日、第1・2午後	壬 242
長嶋医院	毎週 日曜日	壬 277
早川病院	毎週 日曜日・祭日午後	壬 210
長谷川医院	第1・3日曜日、第2・4午後	壬 104
原前医院	第1・3日曜日	壬 141
渡辺医院	〃	稲 30
桑川医院	〃	犬 53
佐藤医院	第2・4日曜日、祭日	犬 2
島田医院	第1・3日曜日	犬 11
石川歯科医院	毎週日曜日、毎月15日	壬 244
上野歯科医院	定めなし	壬 110
細谷歯科医院	毎週 日曜日、土曜午後	壬 256
橋詰歯科医院	水曜、日曜、祭日	壬 259

入学児童の健康診断	場所
一月二十七日	下横町、今井、下表町、中表町、東下台、城東町、上表町、旭町、万町、上新町、下馬木、三好町
一月二十八日	藤井小学校、藤井小区域
一月二十九日	東小区域
一月三十日	東小区域
二月一日	福葉小学校、福葉小区域
二月二日	福葉小区域
二月三日	福葉小区域
二月四日	福葉小区域
二月五日	福葉小区域
二月六日	北小区域
二月七日	北小区域
二月八日	北小区域
二月九日	安塚小学校、安塚小区域
二月十日	安塚小区域

交通事故をなくして

年末、年始は忘年会、新年会、クリスマスなど飲酒の機会が多くなるの瀬のせわしさとともに交通事故が多発します。

壬生町では、昭和四十二年十一月末日までに九十件の事故が発生し七人の痛ましい犠牲者をだして原因はスピードの出し過ぎ、酒よ運転などで運転車が注意すれば防止できたものと見られます。

自分自身のために受ける家族のために酒のみ運転、無謀運転はやめて、笑顔で新年を迎えましょう。

明るいお正月

お知らせ

年末年始の役場事務

昭和四十二年もあわずかに新年を迎えることになりました。年末年始の役場事務は次のとおりです。ご了承ください。

特別の戸籍事務（死に届、死産届）などは行なっておりません。

◆十一月二十八日 ご利用納め

「わが家の家計簿」体験談募集

家計簿が多くの家庭でつくられるようになったこと、貯蓄増進委員会「あるい生活の家計簿」発行状況からもわかります。家計簿を「一人で多くの方々に使ってもらいたい」を強く願っています。

◆十一月二十九日～一月三日まで 体験談を募集します。

◆一月四日 ご利用開始

◆一月五日 恒例の新年祝賀式を行います。

入学児童の健康診断

来年四月小学校に入学する児童は、昭和四十二年四月一日から三十七年四月一日までに生まれた人です。

該当者は、次の日曜で健康診断を行います。それそれ学校区域においでなくても構いません。

一月九日 藤井小学校 藤井小区域

一月十七日 東小区域

一月十八日 東小区域

一月二十日 福葉小学校 福葉小区域

一月二十一日 福葉小区域

一月二十二日 福葉小区域

一月二十三日 福葉小区域

一月二十四日 福葉小区域

一月二十五日 福葉小区域

一月二十六日 北小区域

一月二十七日 北小区域

一月二十八日 安塚小学校 安塚小区域

一月二十九日 安塚小区域

共同募金

ありがとうございます

◆街頭募金額 二二、六五九円

◆法大募金額 九五、四五〇円

◆部落募金額 四三、六三〇円

◆その他 九、〇五六円

これによって、町民の困っている人たちが明るくお正月を迎えられることでしょう。

ありがとうございました。

バラレボール 講習会開く

壬生町教育委員会及び壬生町生活改善クラブでは、農村婦人を対象に簡易バラレボール普及講習会を定于一月十九日壬生ギザンランドで行なわれました。

各地の生活改善クラブ員を対象に行なわれ、講師は町体育指導委員の渡辺清徳先生でこの運動の目的は農村婦人の体位の向上と町体育指導委員会が企画したものです。

終了後、藍田教育長から「農村婦人のバラレボールが盛んになるように」をそれぞれクラブにボールが贈られました。

これを機会にバラレボール大会を開きたいと主催者側はもろろんクラブ員もはりきっています。

無料 一月の心配ごと相談

第二火曜日 九日 福葉公民館

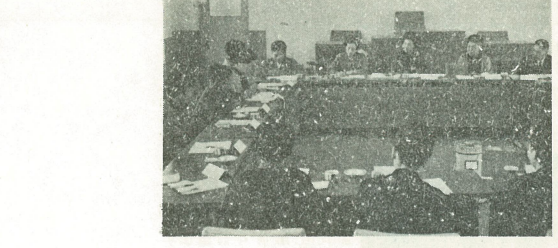
第三火曜日 十六日 中央公民館

第四火曜日 二十三日 南太朗公民館

十六日には、行政相談も併せて開設されます。

(時間はいずれも十時から三時まで)

明るいお正月



農村婦人連絡会議

農婦人少年室の主催で農村婦人問題連絡会議が十一月十一日の生活に大きな影響もたらして参加者は、専業農家あるいは兼業農家に働く農村婦人、そのほか農協、普及隊、および金業者の婦人約二十名の各階層代表が集まり話し合いを行いました。

この会議のねらいは、農村社会熱心に研究する婦人たち



下馬木チーム 二度目の優勝

町体育協会主催の町内対抗町民野球大会は、さる十月十五日、二十一日、二十二日の三日間におこなわれ、壬生小、壬生中、南太朗中のグラウンドで町内代表二十六チームが参加し熱戦をくりひろげました。

試合は下馬木チームと上長田チームが決勝へ進出し四対二の結果を持ち下馬木チームが二度目の優勝を得ました。

優勝した下馬木チーム

講習会風景

講習会風景

講習会風景

講習会風景

明るい幸せな家庭づくり

農村婦人連絡会議

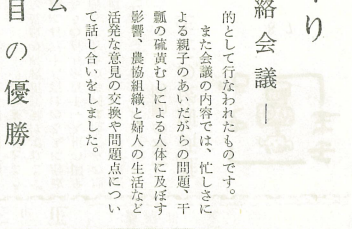
農婦人少年室の主催で農村婦人問題連絡会議が十一月十一日の生活に大きな影響もたらして参加者は、専業農家あるいは兼業農家に働く農村婦人、そのほか農協、普及隊、および金業者の婦人約二十名の各階層代表が集まり話し合いを行いました。

この会議のねらいは、農村社会熱心に研究する婦人たち

農村婦人連絡会議

農婦人少年室の主催で農村婦人問題連絡会議が十一月十一日の生活に大きな影響もたらして参加者は、専業農家あるいは兼業農家に働く農村婦人、そのほか農協、普及隊、および金業者の婦人約二十名の各階層代表が集まり話し合いを行いました。

この会議のねらいは、農村社会熱心に研究する婦人たち



講習会風景

講習会風景

講習会風景

講習会風景

講習会風景

講習会風景

講習会風景

学生寮入寮者募集

栃木県育英会では、栃木県出身の学生で東京都またはその隣接県に所在する大学一年生に入学を希望する学生を対象に次のように募集しています。

●募集の所在地
東京目黒区上目黒八丁目六八三番地

●募集人員
男子学生 約四十名
女子学生 約三十五名

●経費
寮費 年額 一万二千円
随費 月額 五千五百円

◇しゆ切
昭和四十二年二月十日

◇申込先
栃木県庁内 栃木県育英会
くわしくは、役場総務課または県育英会へおたねください。

スキー会員募集

と き 一月二十八日(日)
ところ 日光湯本スキー場
会 費 五百五十円
申込み 一月二十日まで
定員は、五十名、会費を添えて次へお申込みください。
青木スキー部長(壬生町青木那大七)、小島照男(栄町大栗屋さん)、または、役場内教育委員会事務局

戸籍の手数料改正

戸籍の手数料が、昭和四十三年一月一日から次のとおり改正になります。

◇戸籍簿抄本の交付手数料
一枚につき 五〇円

◇閲覧手数料
一戸籍一件につき 五〇円

土地立入について

小山電報電話局では、壬生、南六制局の自動改式工事に伴う電気電信線路建設のため、次により当該地域に立入りますのでお知らせします。

一、立入地域 壬生町各区域
二、期 間 四十三年五月下旬まで

請負業者 壬生局川日興電気工業
南六制局川日興国際電設(株)

一月の納税

町県民税 第四期分

昨年からの農委員の選挙人名簿の登録申請が一月一日現在で調査し、一月十日(提出期限)までに農委員会事務局に提出することになりました。

そこで申請書を十一月末日に農事部長さんを通じて各農家に配布いたしますから記載もれなく申請して下さい。



維新前後の壬生

一藩の動向

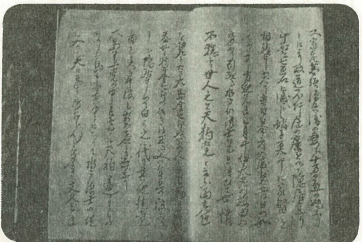
慶応三年に大政奉還された直轄地の中で他は列藩の所有する所である壬生は、幕府の所領である。壬生に入るのは百八十万石に過ぎず、これでは到底新政府の政費を賄うことが出来な。

漸く明治四年七月に至って初めて藩政時藩の数は、百六十三を廃し、県を置き、国統一の事があつたことになった。大政奉還から慶應三年までの数年の間旧藩のあり所は旧藩主が知藩事として行政に當つた。即ち栃木県となるまで壬生は壬生県として存在した。

その行政の実務は参事(大小)の名のもとに旧藩が当り、チェンと参事や藩刀の携つていた當時では万事旧藩依然なかなか改まらなかつた。尚武備も何番隊などといつて各藩もつていた。

壬生県のそれ例示すれば大参事大島金七郎の次に勘行奉行、在町奉行、作事奉行、監察などがあり行政に任じ常備兵として三番隊まであった。

ここまでに至る道程としてやや時代は過るが藩の動向や藩士の動



写真—石崎家にのこの古文書

きについて今再び述べてみたい。以下記する所は藩政であった石崎家にのこの文書による。

大政奉還の行はれた時の壬生藩主は島居忠宝(ただとみ)で忠宝の父忠孝(ただひら)は幕府の若年寄を勤める組の人物であったが不幸賜チラスにかかり四十三才で急死した。時に忠宝は十三才の若年であった。

この時、家老職は島居一門が占めていてその上層は島居藩刀であり知行千石であった。後藩刀は稲居にして自分は二百石となり妻子千石の邸が五百石養子志摩(幼名庄之助)は二百石の知行になった。

養子の志摩は島居の一門忠利の妾腹の子で、小才があり驕横で派手好みで島居家の厄介者であったのを藩刀がすくいあげ養子としたのである。後志摩は江戸家老となつた。いつの世にもあることであるが先君が死去し当主がまだ若いことをよいことにし、奸佞の輩が跋扈して志摩を押し立てて藩政をほし、まににし断路が横行する始末であった。志摩の妾派手好みで夫をそのかし美譽をまとい物見遊山や酒宴遊興に没入するといつた状態であった。時に内外多事一大変革の兆が現われ、夢に酔いひれていたのである。しかも他の老臣たちは微力ですうすることとも出来ない。心ある士は憤慨して機至らば之を除かんとうかがつて、文久二年忠宝は十八才となり壬生に入国した。

江戸ではこの秋藩主忠宝の妹君みづ子姫が十三才の御儀があること、志摩夫妻以下佞臣の輩一同大いに祝宴を開かんといふ準備に余念がなかつた。

この機を逃すべからずと正義の士大島金七郎以下角田、小笠原、山田、増田、野村、高須、福島、長島、渡辺、船木、鎌田、佐藤、志賀、石崎誠庵、石崎正徳等が密に会合した。(福田)